

『紡ぐ』

2021.4.15 第21号
発行 教育相談室「あした塾」

息吹春



桜の季節。山の木々は芽吹き、野の花も黄色をメインに咲きはじめています。春は毎年「桜 福（花ニラとタンポポ）張って生きて行かなければ…」という新しい力を与えてくれます。コロナ禍の中ではあります。けれど、生きていきたいものです。（息吹くには「生きている」の意味）

画品 郭熙四時山に「春山淡冶にして笑うが如く、夏山蒼翠として滴（しず）るが如し。秋山明浄にして粧（よそお）うが如く、冬山惨淡として睡（ね）むるが如し」とあります。春の芽吹きはじめに華やかな山は「山笑う」という言葉で表され春の季節語になっています。

（新崎：桜とボウ待ちやぐら）

桜の風景

今年の桜は花の数が多いが、木が自立した。なぜ？

穴水は、あちこちに桜を見ること出来ます。昨年紹介できなかったところ。新崎の「桜とボウ待ちやぐら」は、「絵」としてすでに思いました。見たいところ場所も知りませんが、ちょっと時間を止めて、身の周りの風景に心を向けてみませんか？



（出村の旧宇留小学校前）



（梶・波表集会场）



（中居：甘詰川横、白濁橋前）

穴水再発見

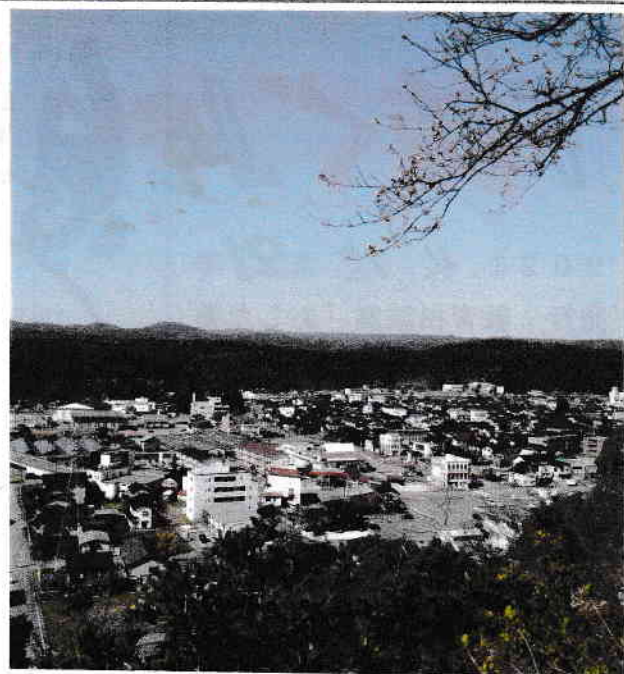
穴水城跡公園

穴水所が設置した「穴水城跡」の看板には「天正6年(1578)長連龍宛柴田勝家書状の『穴水城』が文字の初見。『長家家譜』によれば8代正連から21代連龍まで約200年余の長家の居城と見られる。」とあります。

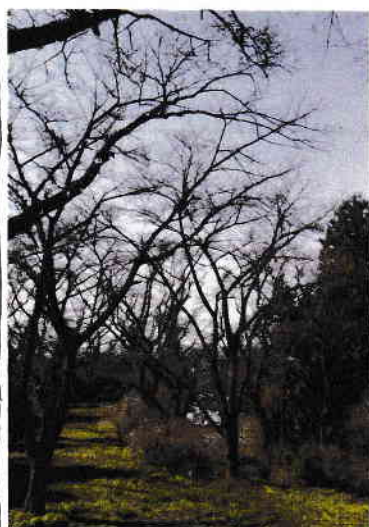
築城年代は定かではありませんが、南北朝時代に長氏によって築かれたのが始まりとされています。当程度の規模であったものが、

戦国時代、長氏19代長統連の時に城として整備されたと言われています。穴水城は別名「岩立城」「白藤城」「白波城」「岩木城」と呼ばれていたそうです。(知りませんでした。)

(一部インターネット 古城盛衰記等を参考に記述しました。)



(穴水城跡公園から穴水市街地を望む)



公園の宝です！

公園として整備されたときには「おすけろ総話会」の方のご尽力があったそうです。駐車場、トイレなどもあります。壊れたそうです。昨年訪れたときには倒木、枯れ枝の散りなど大変でした。観光客も訪れています。「草ぼうぼうで、遺構がわからなくなりました」と書きこむ…。田の宝です。ボランティアを募ってもいいかもしれませんね！(T)

は「おすけろ総話会」の方のご尽力があったそうです。駐車場、トイレなどもあります。壊れたそうです。昨年訪れたときには倒木、枯れ枝の散りなど大変でした。観光客も訪れています。「草ぼうぼうで、遺構がわからなくなりました」と書きこむ…。田の宝です。ボランティアを募ってもいいかもしれませんね！(T)

4月3日現在の城跡の桜の様子です。



城跡公園の駐車場には、長氏34代・長昭連の揮毫による穴水城跡の石碑が建てられています。また公園に向かう道路脇に「岩屋堂観音」が置かれています。(平成29年7月長谷部まつりに復元)



4年前(2017年)に訪れた時は、二人で写真を撮ったのですが、現在は残念なほど荒れた状態です。